



最新ビジネスモデル関連ニュース①

テクノロジーが変えたドリンクビジネス

岡田亜希子
(ハイテク・通信業界リサーチャー)



新しいビジネスモデルが生まれるきっかけの1つに、「テクノロジーの進化」がある。半導体の進化、通信技術の進化、デジタル技術の進化等、様々なテクノロジーの発展は、新たなプロダクトを創りだすだけでなく、昔からある商材の売り方をがらりと変えたり、新たなサービスを生み出したりしている。今回は 2016 年上半期に発表されたニュース記事の中から、非常に身近な商材として「飲み物」を取り上げる。

記事 1 は、米 Replenish 社が開発した、予め野菜、果物、ナッツなどがブレンドされたカップをセットするだけでスムージーを作れる自動スムージーブレンダー。ジューサーやミキサーは昔からあるものだが、このスムージーブレンダーには自動洗浄機能がついており、ユーザーは機械を洗う必要が一切ない。健康的な飲み物を手軽に自宅で作れたら、という創業者のアイデアだ。「後片付け」という手間を省くことで、スムージー作りをぐっと簡単なものにした。同社サイトによると、元 Apple と元 Boeing のエンジニアが開発したというブレンダーは、非常におしゃれで洗練されたデザインである。Replenish 社の収益源は主にオフィス向けのブレンダーのレンタルと、3.5-5 ドルのスムージーの材料が入ったカップ販売となっている。プリンターのカートリッジのようなビジネスモデルである。

このような自動洗浄機能のような新しいデバイス技術がなくても、IoT (Internet of

Things)で、ドリンクの購入方法をがらりと変えたサービスがある。Amazon の自動発注ボタン”Amazon Dash”である（**記事 2**）。日々の生活の中で、切れてしまうと困るような生活必需品について、フリスクのような形のボタンを押せば Amazon への注文が完了する、という仕組みだ。洗濯機にボタンを装着しておいて、洗剤がなくなると押す、といった使い方になる。最近では洗剤のみならず、スターバックスや illy のコーヒー、Red Bull など、各種ドリンク商品の専用ボタンもリリースされている。定期購入とは少し違って、必要と思われるタイミングで注文することができること、ボタンが商品と紐づいているため、競合商品にスイッチされにくくなる利点がある。このボタンは約 5 ドルであるが、最初の注文でほぼ同額の割引が付与されるため、実質無料である。

前述の Replenish 社のスムージーブレンダーと、Amazon Dash を足し合わせたようなサービスに、ネスレ社のネスカフェゴールドブレンドバリスタコーヒーマシンがある（**記事 3**）。コーヒーマシンに、ネスプレッソ社のコーヒー粉末を挿入すると、挽き立てのような美味しいコーヒーが味わえる。2016 年 8 月に発表されたのは、このコーヒーマシンに IoT 機能をつけ、コーヒー粉の残量を携帯に送信、自動発注できるものである。これにより、ユーザーの味の好みを分析して商品開発につなげる他、一人暮らしの高齢者がコーヒーマシンを定期的に使っているかどうかを安否確認の手段として活用することも検討しているとのこと。瓶に入ったインスタントコーヒーの単品販売でもなく、毎月の決

まった日に送られてくるような定期販売でもなく、IoT によって、ユーザーごとに然るべきタイミングで注文を受けることができるのは、これまた新しい販売方法である。

IoT をまた違った角度から使ったドリンクビジネスを立ち上げた企業に米 Perfect Company がある（**記事 4**）。同社は、Bluetooth を搭載したスマートスケールを開発。スマートフォンにダウンロードしたカクテルのレシピを見ながらスマートスケール上で材料を調合すると、分量どおりかどうか、スマートフォンに表示される仕組みだ。これで難易度の高いおしゃれなカクテルを自宅で作ることができ、自宅に招いた友達に自慢できる、というのが売りだ。自分でオリジナルのカクテルを作ってレシピを保存することもできる。スマートフォン上のレシピを見ながら料理をすることはもう当たり前になっているが、そのレシピ通りに材料を調合できているかをスマートスケールで判断し、Bluetooth でスマートフォンに送信しているところが新しい。料理の中でも重要なプロセスである「計量」を簡単に正確にできれば、料理は楽しいものになる、というのが創業者の思いである。同社はただスマートスケールを単品売りしているだけではなく、スマートスケール、ボウル、レシピアプリをパッケージにして販売している。

最後に非常にシンプルなデバイスを紹介しよう（**記事 5**）。スロベニアの Ulla Labs 社が開発しているのは、ボタンもスイッチもない、LED、センサー、マイクロプロセッサーで構成された

いたってシンプルなドリンクリマインダーデバイスだ。ペットボトルなどの飲料が入った容器に装着するだけで、容器の傾きや置くまでの時間から摂取した水分量を判断し、次に飲むべき時間を光で教えてくれるデバイスである。スマートフォンのアプリは必要ない。箱から取り出したらすぐに使えるという。日本でも 2,980 円(税込み)で販売されている。現代人は必要な水分を摂取できておらず、水を飲むことで様々な病気の予防になる、という創業者の強い問題意識から生まれたデバイスである。デバイス売りの非常にシンプルなビジネスモデルではあるが、どんなドリンクにもセンサーをつけられることや、誰がどんな飲み物をいつどれくらい摂取したのかというデータのユニークさを考えると、今後新たなビジネスモデルを生む可能性を十分に秘めているといえるだろう。

記事出所

1. Replenish 社の自動洗浄機能付スムージーブレンダー
“LivBlends renames itself Replenish and gives us a first look at its futuristic smoothie machine”
2016/07/27: TechCrunch
<https://techcrunch.com/2016/07/27/livblends-renames-itself-replenish-and-gives-us-a-first-look-at-it-futuristic-smoothie-machine/>

2. Amazon 社の自動注文ボタン
“Amazon の IoT ボタン「Dash Button」、好評につき 100 種類に拡大 Lilly のコーヒーやロレアルの化粧品も”
2016/04/01: IT Media
<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1604/01/news117.html>

3. ネスレ日本の IoT コーヒーマシン
“ネスレ日本、コーヒーマシンに IoT 粉を自動発注”
2016/8/26: 日本経済新聞
<http://www.nikkei.com/article/DGXLZ006514640V20C16A8TJC000/>

4. Perfect Company 社の Drink Pro
“How the Internet of Things is shaking up the cocktail market - Consumer Trends”
2016/08/04: just-drinks
http://www.just-drinks.com/analysis/how-the-internet-of-things-is-shaking-up-the-cocktail-market-consumer-trends_id120951.aspx

5. Ulla Labs 社のドリンク・リマインダー
“10 万人の水分補給習慣を助けたスロベニア発のバンド型デバイス「Ulla」”
2016/08/11: CNET Japan
http://japan.cnet.com/sp/europe_trend/35087010/

著者紹介



岡田亜希子

ハイテク・通信業界リサーチャー。外資系コンサルティング企業にて、ハイテク・デジタル分野における新規事業、M&A、成長戦略立案等のプロジェクトに従事。業界調査、企業調査、消費者調査等を担当。